

【今週の注目疾患】

《インフルエンザ》

2025 年第 43 週(10 月 20 日～26 日)における定点当たり報告数は 11.82 となり、注意報基準値 10 を上回りました¹⁾(図 1)。

インフルエンザは、突然の高熱、頭痛、関節痛など、普通の風邪に比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併し重症化することがあるため、体力のない高齢者や乳幼児などは、特に注意が必要です。手洗いや咳エチケットの励行に努め、重症化を予防するための予防接種も検討しましょう^{1,2)}。

第 43 週における定点当たり報告数は、前週の 6.99 (人) から増加して 11.82 (人) となった。特に、香取 (39.60)、船橋市 (15.53)、君津 (15.25) 保健所管内が多くなっていた (図 2)。

図1:千葉県の流行シーズン別インフルエンザ定点当たり報告数

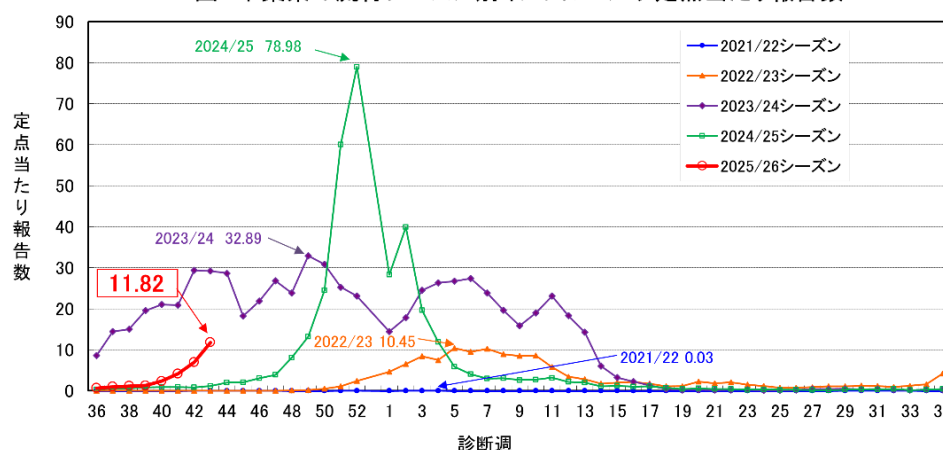
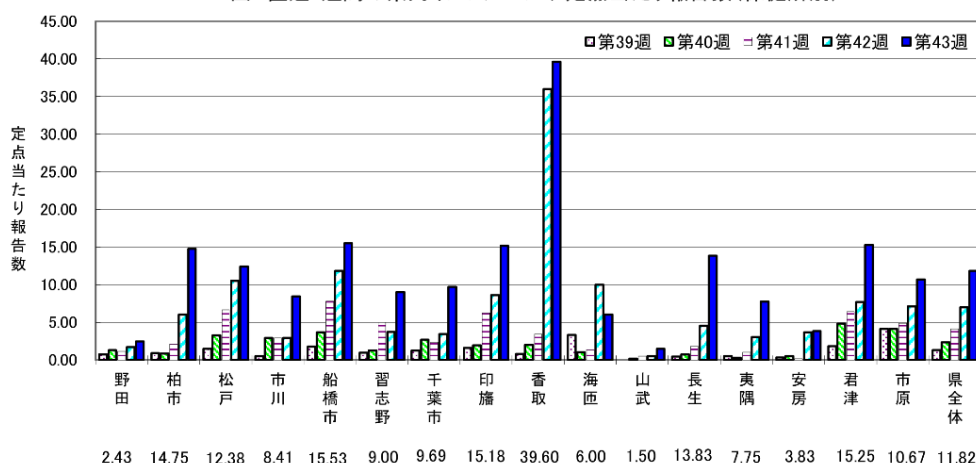


図2:直近5週間の県内インフルエンザ定点当たり報告数(保健所別)



第 43 週の報告数 2,174 例のうち、年齢群別では、10 歳未満が 959 例 (44.1%) と最も多く、次いで 10 代 785 例 (内訳は、10～14 歳が 598 例、15～19 歳が 187 例、合わせて 36.1%)、20 代 118 例 (5.4%)、40 代 106 例 (4.9%) と続いた。

より重症な症例数の推移を反映する県内 9 か所の基幹定点医療機関からの入院患者報告数は、6 例 (前週 10 例) であった。

また、定点医療機関の任意の協力により集計している迅速診断の結果では、2,020例中1,985例(98.3%)がA型であった。

第43週のインフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の発生状況は、休校1校、学年閉鎖15校、学級閉鎖83校であった¹⁾。なお、県内の保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校における、学級閉鎖等の措置の状況については、厚生労働省ホームページにおいて公表されている³⁾。

インフルエンザはインフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気である。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴であるほか、普通の風邪と同じように、咽頭痛、鼻汁、咳等の症状もみられる。小児ではまれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫力が低下している患者の場合には肺炎を伴うなど重症化する危険性が高い^{2,4)}。

予防するための有効な方法としては、(1)こまめな手洗いや咳エチケット、(2)適度な湿度の保持、(3)十分な休養とバランスの取れた栄養摂取、(4)人混みや繁華街への外出を控える、(5)室内ではこまめに換気をする、(6)予防接種、が挙げられる^{1,2)}。

咳エチケットについて^{1,2)}

県では、「咳エチケット」を推奨しています。

- (1)咳・くしゃみが出たら、不織布製のマスクを鼻から顎まで隙間がないように着用しましょう。
- (2)マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、他の人から顔をそむけて1メートル以上離れましょう。
- (3)鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めたときはすぐに手を洗いましょう。
- (4)咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。

■参考・引用

- 1)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザ注意報の発令について（令和7年10月29日）
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/press/2025/infulu1029.html>
- 2)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザから身を守ろう
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influenza-yobou.html>
- 3)厚生労働省：インフルエンザの発生状況について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaaku-kansenshou01/houdou_00023.html
- 4)厚生労働省：インフルエンザ（総合ページ）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaaku-kansenshou/infuenza/index.html